

2012年
10月号
月刊

2012 October

10

薬局新聞

疾病

Pharmacy Press

COPD 慢性閉塞性肺疾患

Chronic Obstructive Pulmonary Disease



COPDとは？

COPD(シーオーピーディー)はChronic Obstructive Pulmonary Disease の略で、日本語では、「慢性閉塞性肺疾患(まんせい・へいそくせい・はいしきかん)」と呼びられます。COPDは、肺に慢性の炎症が起こることで、気道(肺に通じる空気の通り道)が狭まり、肺への空気の流れが悪くなる病気です。

COPDの症状

- 息切れ(階段の昇り降りなど少し動くだけで起こる)
- 頻繁に続く咳、痰

何年もかかるて、少しづつ呼吸機能が低下し、病状が進みます。

～年のせいだと、あきらめていますか？
咳、痰、息切れが続くときは、呼吸器内科に
かかりましょう。～

以前は「慢性気管支炎(炎症により気管支が狭くなる病気)」、「肺気腫(肺で酸素と二酸化炭素を交換している肺胞が壊れる病気)」といわれていたもので、現在では、この二つを合わせてCOPDと呼んでいます。

最大の原因是、タバコです

COPDは、空気中の有害な粒子やガスを吸うことによつて起こります。有害物質のなかでも最大の原因となっているものがタバコです(喫煙者の周囲で煙を吸う「受動喫煙」を含む)。COPDは「タバコ病」とも呼ばれています。

1日に何本も吸うヘビースモーカーや、長年タバコを吸ってきた人、タバコを吸い始めた年齢が低い人ほどCOPDになりやすいです。一度壊れてしまった肺は元には戻らないので、何よりも最大の原因であるタバコを止めることが重要です。なかなかタバコを止められない方は、一度禁煙外来を受診してみてはいかがでしょうか。禁煙を助ける飲み薬や貼り薬を使い、比較的楽に禁煙できるように指導を受けることができます。

【表2】

使われる薬	特徴
抗コリン薬[吸入薬] (スピリーバなど)	気管支を収縮させるアセチルコリンという物質のはたらきを止めます。その結果、気管支を広げ、空気の流れをよくして呼吸を楽にします。
β_2 刺激薬[吸入薬] (セレベント、オンプレス、オーキシスなど)	気管支を広げるはたらきのある「 β_2 受容体」という部分に薬が結合して気管支を広げます。作用時間の長い薬がよく使われます。
テオフィリン製剤 (テオドールなど)	気管支を収縮させる反応を起こす酵素を阻害して、気管支を広げる作用があります。上記の吸入薬で効果不十分な場合に、併用することがあります。
ステロイド薬[吸入薬] (キュバール、フルタイド、パルミコートなど)	炎症を抑える作用があります。上記の気管支を広げる薬と一緒に使われることがあります。とくに、気管支などに炎症がみられ、喘息のような症状が伴うときなどに使われることがあります。
β_2 刺激薬+ステロイド薬 [吸入薬] (アドエア、シムピコート)	気管支を広げる β_2 刺激薬と、炎症を抑えるステロイド薬が一緒に成了した吸入薬です。それぞれの薬を単独で使うよりも効果が高いことが分かっています。

喘息との違い

COPDと気管支喘息(喘息)は、どちらも肺への空気の流れが悪くなる病気ですが、以下のような違いがあります

【表1】

	COPD	喘息
原因	タバコなど	アレルギーなど
発症する年齢	中高年で発症する場合が多い。	全年齢層で発症する。若くて発症する場合も多い。
症状の出かた	症状は徐々に進行する。階段の昇り降りなどの体を動かした時に発作が現れることが多い。	発作が起こっているときだけ、気道が狭まっている。発作が治まると、呼吸機能が正常に戻る。発作は夜間と早朝に起こることが多い。

COPDに使われる主な薬

COPDの薬物療法では、息苦しさなどの症状を和らげ、病気の進行を抑えることが目的となります。そのため、気管支を広げて、空気の通り道を確保する治療を中心になります。

右の段【表2】参照

その他、症状に合わせて、咳を止める薬(メジコン、アストミンなど)や、痰を出しやすくする薬(ムコダイン、ムコソルバーンなど)が使われることもあります。

COPDの薬は、吸入する薬が多いですが、その操作方法は様々です。病院や薬局で使い方を教えてもらいましょう。

薬は毎日継続してこそ効果が出ます。自己判断で中止しないようにしましょう。



風邪のシーズンに備えて…

COPDは、風邪やインフルエンザなどにかかると、症状の悪化につながることがあります。流行シーズン前のインフルエンザワクチンの接種、流行期には、手洗い、うがい、十分な休養など予防を行なうことが大切です。

